

学習目的意識を持たせた工業英語教育

小澤 志朗*

Encouraging Science and Technology Students to Have More Awareness in Learning English

Shiro OZAWA

Does each of the students have personal objective for studying English? For what are they taking a certain course? How do they want to achieve their goal if they have one? These are the questions the students are asked to consider and answer. It is to let them have better or clearer image and objectives for them to study English. They seem to take English courses only for the sake of taking credits to fulfill requirement for graduation.

Being aware of one's own objectives while learning English would be beneficial and important because it induces higher motivation in learning. A questionnaire was taken as the first step of the training of the learners to learn how to learn a language, English in this case. It was found out that though they are vague, the students have a fair knowledge and image of their future need of the command of English. Yet they have a weak strategy and motivation to attain their goal. Further training in the strategy is needed in order to provide the students with better learning environment.

キーワード：学習目的意識，自律的学習者，工業英語

1. はじめに

外国語をどのように学んだら良いかをテーマにした本は、昔から何冊も出版されているが、これはいかに世の中の大勢の人が外国語をマスターしたいと思ひ、また挫折しつつ、また新たな需要が生まれてきたかということを示している。最近では日本全体での英語教育が批判されている。¹⁾たとえば、日本では中学校からはじめて、大学を卒業するまで10年間も学校での教育を受けていながら、なかなか力がかからないという批判はその主たるものの一つである。英語教育に携わる者は、これらの批判が正当なものかどうかをそれぞれ検討し、正当なものには耳を傾け、変革の努力をし、そうでないものにはきちんと論証、反論する必要があるが、ここでは英語教育の受益(?)者、あるいは主役である学習者の役割を検討してみたい。

それは、ある言語のマスターに成功するか否かは、最終的には学習者本人の責任であるし、学校教育においても教育を受ける側の主体的な努力が非常に重要であるからである。これは、他のどんな教科目に関しても言える事ではあるが、外国語学習の場合は特別である。なぜなら、本当に使えるようになるためには学校だけの学習ではまったく足りず、長い年月と努力が必要だからである。つまり、学習言語を学習者自身の中に内在化させるためには、母語を学習したのと同じかそれ以上の時間をかけること、また意識しての努力が要求されるからである。外国語教育技術は、英語教育方法という形で英米はもとより日本でも専門雑誌等が何冊も発行されるほどで、良く研究されているのに対し、学習者がいかに学習すべきかに付いては検討されることが比較的少ないからである。日本には受験技術に関する本はあるものの、外国語の学習に関しては学校を卒業した大人向けのものが目に付くだけで、学校での学習に関して解説した書は多くは見当たらない。これらの書が英米に多いのは、移民や留学生を相

*一般科 助教授

原稿受付 1999年10月29日

当数受け入れている国との国情の違いが現れているのであろう。ただ、日本人にとっての外国語学習のイメージは、今までは学校教育にほとんど期待していないような傾向があった。

前述した、外国語をいかに学んだらよいかという本の中には、一人の著者によるものと、何人かの語学をマスター（成功）した人物の経験談を編集したものがある。両方からその共通項を具体的にリストアップをすれば、学習の仕方に大いに役立つと思われる。しかし、成功譚をそっくりまねて成功した者が少ないように、良く考えてみるとすぐには実際の効果は期待できない場合が多い。特に経験談を編集したものは、寄稿者が他の面でも非常に高い知的能力を備え、成功している場合が多く、一般の読者とは似つかない場合が多いからである。

さて、学習者がいかに学習したら良いかという事をテーマとした研究はすでに多くなされている。²⁾ そのなかの日本人言語学者によるもの一つから骨子を抜き出すと、第1に外国語の習得にはコツがあり、それを知ること、次に覚えたことを忘れることを恐れてはいけない事、第3に何語を何の目的で、どの程度習得するつもりなのかをはっきりさせること、そして必要なものとしてお金と時間、覚えなければならない項目は語彙と文法、大切な道具はよい教科書と、よい先生と、よい辞書だと述べている。³⁾

ここでは第3の項目の、学習者に外国語学習の目的意識をいかに持たせるかということについて、長野高専の学生の実情に即して考え、またいかにして高専の英語教育にそうしたことを採り入れていくかについて検討することとする。

2. よい外国語学習者とは

よい外国語学習者とは学習目的意識を持った学習者のことだと考える。それは自律的学習者とも呼べる、学習の責任と目的を持ち、方法、効果に関する自己管理ができる学習者のことである。長野高専生を含む日本の一般的な中学、高校、大学等の学習者は、まず、英語をなぜ（何のために）学ぶかについての意識があまり無いように見える。ただ単に学校の教科（科目）としてあるので、卒業するために嫌々やっている、という姿勢である。なんとなく好きだから一生懸命やり、その結果成績も良くなり、さらにやるという学生は少数にとどまる。その結果、大多数が誰かに（半強制的に勉強を）やらされているという意識になっているのではないだろうか。

Learning to Learn English, A Course in learner training という、学習者に英語の勉強の仕方を教えるためのテキストの指導書である *Teacher's Book* では、よい学習者について次のように記している。

As far as it is possible to generalize, good language learners are: self aware, inquisitive and tolerant, self-critical, realistic, willing to experiment, actively involved, and organized.

以下に日本語訳および同書からの説明を加える。

可能な限り普遍化して（述べる）と、よい学習者というのは学習者意識を持っている（self aware）こと、学習している言葉の働きに関する知識およびそれをいかに効果的に学習できるかどうかについて関心を持っていること、母語と学習言語の違いや理解のあいまいさ、不確かな状態に関して許容度がある（inquisitive and tolerant）こと、自分自身の言語能力について評価し、その向上に関して注意を払っている（self-critical な）こと、言語をマスターするには多大の時間と努力が必要であるという現実的なイメージを持ち、実現可能な短期的な目標を立てうる（realistic）こと（学習の動機付けになる）、新しい学習方法を試したり、進んで練習問題等をする（willing to experiment）こと、言語習得の活動に進んで参加し、失敗を恐れずにいること（actively involved）、自分の時間や教材を自分のスタイルに合うようにアレンジ（組織・応用）でき、教室内外で活用可能な教材をできる限り利用するように努める（organized）学習者である。⁴⁾

前述したいわゆる語学の達人たちは、意識する・しないにかかわらず以上の何らかの点に当てはまり、自分なりの努力をしていたに違いない。

さて、再び日本の状況に即して考えてみると、大学を目指す学習者には、大学入試でよい成績を上げるために学習する、という当座のしかし非常に具体的で切実な目標があり、高等学校までの英語学習に非常に強

い影響力を及ぼしているのは誰の目にも明らかである。高等学校までの英語(外国語)学習をゆがんだものにしていくという批判は妥当なものとする。では、大学入試がなく、受験勉強に苦しめられることがないと言われてきた高専生は、正しい学習意識を持ち、よい方法で学習して力がついているかという点、残念ながらまったくそんなことはない。最近では大学への編入学生の増加に伴い、英語学力のなさを以前にも増して批判され、改善が要求される状態になっているのは周知のとおりである。

3. 5年生英語選択者の学習目的意識調査について

実際の学習者の英語学習に関して抱いているイメージについてアンケートで調査した。この調査の目的は、①アンケートを通じて学習者に学習に関して自分なりの目標や英語学習方法について意識をさせる、②学習者の実態を把握することにより、より効果的な授業を目指すということにある。

アンケート対象は、平成11年度に筆者が担当する「工業英語」というタイトルで行っている5年生選択英語受講者の31名である。アンケート実施時期は平成11年4月の最初の授業時。

3-1 アンケート調査と結果

工業英語学習に関するアンケート

(1) 何のためにこのコースを取っていますか?

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 卒業に必要だから | 3 (%)、
数値は以下すべて同じ) |
| 2. 他にとるものがないから | 71 |
| 3. 英語は将来必要になるだろうから | 13 |
| 4. 友達がとったから | 13 |
| 5. なんとなく | 0 |
| 6. その他 | |

(2) あなたは何のために英語を勉強していますか?

(記述して回答してください)

消極的な理由で選択した学生。

- ・学校の授業にあるから。
- ・カリキュラムに含まれているから。でも、英語は話せるようになりたいと思うし、嫌いじゃない。

書いてはあるものの、具体性に欠ける理由。

- ・学校の外に、外国から来ている友人がいるから少し

でも話せるようになりたいから。

- ・英語を理解するため。
- ・中学からやってきた英語の能力をさらに高めたい。
- ・外国の人とも気楽にコミュニケーションが出来るように。
- ・国際交流のために必要だから。
- ・海外の人々との交流をしたいから。
- ・外国人と英語で話す時が来るだろうから。
- ・英語が難なく使えるようになりたいから。
- ・英語が好きだから、もっと話せるようになりたいから、もっと書けるようになりたいから。
- ・中学校からの延長であり、使える人がいっぱいいるから。映画を見れる。

身近で、具体的な理由。

- ・最近には特に将来のため。どこの会社に見学をしても英語は必ず必要になるし、(勉強をして)損をすることは絶対はないと言われる。それに会社に出てからやり始めても独学には限度があるし、だから今のうちに英語に慣れておきたい。
- ・大学受験で必要だし、将来役に立ちそうだから。
- ・自分が将来就職したい会社が海外にも工場を持っていて、ひょっとしたら海外研修に行くことになりそうだから。これからは国際社会と呼ばれ、外国人との交流に不可欠だから。

近い将来に必ず(多分)必要になるだろうという回答者が一番多い。

- ・今はあまり使うことのない英語だが、将来社会に出て必ず必要になると思う。
- ・もともとは英語が好きだからだけど、この頃、好きでも嫌いでもやらなければならない状況になってしまった。だから今はやらなきゃいけないからやっていると言う感じ。
- ・英語は将来必要だから。
- ・将来仕事で使うかもしれないから。
- ・将来必ず英語が必要になると思うし、外国語を話せるようになりたいと思うから。
- ・将来というか就職などには英語は必要であるから。
- ・海外に出た時に、何か一つ話せる言葉がないと困ると思うし、今後も必ず必要になってくると思うから。
- ・できないとやって行けなさそうだから。
- ・しゃべれた方が仕事がしやすい。
- ・社会に出た時、ある程度の英語がわからないと困ると思ったから。外国の本、webpageなどを読めるように。

- ・将来外国へ行くようなことがあってもたくさんの人と話せるように。
- ・将来必要らしいから、しょうがなく。
- ・将来役立ちそう。(仕事についてからもいろいろ)
- ・いろんなところを旅行したいので、基本的にしゃべれるぐらいになりたい。
- ・社会に出たら国内だけでと言うわけには行かないと思うから。
- ・英語が出来ないから。
- ・外国の人たちと普通に不自由なく一緒に生活できるようにになりたい。自分の仕事(日本の伝統的のことをやりたいから)それを伝えられるようにになりたい。

(3) 何のために英語を勉強するか考えて勉強をしていますか?

- | | |
|-----------------|----|
| 1. 今までに考えたことがある | 61 |
| 2. 考えたことはない | 6 |
| 3. いつも意識はしている | 26 |
| 4. その他 | 6 |

(4) 英語を将来どのように使うようになると思いますか?

- | | |
|-------------------|----|
| 1. 職業の場面で生かしたい | 20 |
| 2. 職業以外の面で生かしたい | 9 |
| 3. 職業の場面で多分必要になる | 54 |
| 4. 職業以外の面で多分必要になる | 9 |
| 5. その他 | 9 |

(5) 英語を将来どのように使えるようになりたいですか?

- | | |
|--------------------------------|----|
| 1. 話せるようになりたい | 55 |
| 2. テレビや映画などを見て内容がすぐにわかるようになりたい | 21 |
| 3. 教養をつけたい | 3 |
| 4. 英語の文書を読めるようになりたい | 13 |
| 5. 書けるようになりたい | 8 |
| 6. その他 | |

(6) 今の自分の英語力についてどう思いますか?

聞くこと

- | | |
|--------------|----|
| 1. まあまあできる | 21 |
| 2. 何とかできる | 21 |
| 3. どちらともいえない | 18 |
| 4. やや苦手である | 28 |
| 5. とても苦手 | 13 |

話すこと

- | | |
|--------------|----|
| 1. まあまあできる | 0 |
| 2. 何とかできる | 3 |
| 3. どちらともいえない | 26 |
| 4. やや苦手である | 39 |
| 5. とても苦手 | 32 |

読むこと

- | | |
|--------------|----|
| 1. まあまあできる | 13 |
| 2. 何とかできる | 35 |
| 3. どちらともいえない | 16 |
| 4. やや苦手である | 19 |
| 5. とても苦手 | 16 |

書くこと

- | | |
|--------------|----|
| 1. まあまあできる | 0 |
| 2. 何とかできる | 19 |
| 3. どちらともいえない | 32 |
| 4. やや苦手である | 29 |
| 5. とても苦手 | 19 |

全体をまとめて言うと

- | | |
|-------------------------------------|----|
| 1. 英語の本を楽しんで読んだり、外国人と付き合える | 0 |
| 2. 外国へ1人旅を何とかする自信がある | 0 |
| 3. ゆっくり喋ってもらったり、書いてもらったりすれば何とか話は通じる | 81 |
| 4. できたら外国人に会いたくない | 10 |
| 5. 外国人を見たら逃げたい | 3 |
| 6. その他(自分の言葉で自分の英語力を表すと) | 6 |

(7) どんな英語が(将来)必要になると思いますか?
(複数選択可) 数値はアンケート被調査者総数に対し、それぞれの項目を選択した人数の割合(%)

- | | |
|---------------------|----|
| 1. 外国人と話ができる | 84 |
| 2. 自分の仕事のことが説明できる | 48 |
| 3. 簡単に他人に指示が出せる | 10 |
| 4. 他人に複雑な指示ができる | 6 |
| 5. 英語で電話やメールの応答ができる | 61 |
| 6. 英語で交渉ができる | 42 |
| 7. 英語でディスカッションができる | 29 |
| 8. 外国へ旅行ができる | 42 |
| 9. 辞書を使って英語の文を読める | 23 |
| 10. 英語の文が書ける | 68 |

- (8) 先輩は英語を必要としていますか？
1. 仕事の関係で外国に行っている先輩を大勢知っている 0
 2. 仕事の関係で外国に行っている先輩を何人か知っている 3
 3. 仕事の関係で外国に行っている先輩の話を知ったことがある 13
 4. 仕事の関係で外国に行っている先輩はあまりいないようだ 26
 5. 良く分からない 58

(9) 高等学校までの英語学習はどうでしたか？

英語は

1. とても好きだった 3
2. まあまあ好きだった 37
3. どちらでもない 30
4. どちらかといえば嫌い 20
5. とても嫌いであった 7
6. その他 3

(10) 学校の授業以外で英語を勉強したことはありますか？

英語の検定は持っていますか？

1. 持っている 94
2. 持っていない 6

英語の習得につながる他の勉強はどんなことをしていますか？

(例) 文通, 英語の歌を歌えるようにする, 英語の映画を見る, 2カ国語ニュースを見る

(11) 外国に行ったことがありますか？(どちらかの数字に丸をしてください)

1. ある 26
 国名 _____ 期間 _____
2. ない 74

(12) 工業英語って何でしょうか？自分の考えていること(イメージ)を書いてください。

・機械や装置などの特徴や仕様, 操作方法を説明できるような専門的な単語の勉強, 英語圏内での一般的な仕様の書き方などの勉強をするもの。

・工業で必要な単語が多く出るだけであり, 普通の英語とあまり変わらない。

・工業をやる人にとって必要な工業関係の英語。

・主に機械, 電気など工学分野の専門用語を扱った文章を読むこと, 書くこと。しかしそれは一般英語にも

十分通ずるものがあると思う。

・工業関係の仕事についたときに使う専門用語のことだと思っています。その用語を使って, 専門的な説明とかしたりするのも工業英語に含まれると思う。

・世界中のエンジニアが考えを通じ合わせるための1つの手段。

・工業に使うような, 普段聞き慣れていない単語が多く出てくる。

・この分野で将来やっていくなら, ある程度は知っておかないとなと思っています。

・何ともイメージしがたい, 良くわからない感じ。でも普通の会話に比べて専門的な用語が多い気がします。

・将来自分たちの働く場所(各企業)に行って外国人と話をするとき話す英語, エンジニアとして知っておきたい英語。

3-2 アンケート調査結果の考察

一般的に回答はかなり率直なもので, 良くわからないものは良くわからないままに返答している点には好感が持てる。以下, いくつかの項目を選んで考察をする。

まず, (1)「何のためにこのコースを取っていますか？」という項目への回答からもわかるように積極的に英語学習に向かっている学生は少数派である。

(2)「あなたは何のために英語を勉強していますか？」という設問に対しての回答は重要であるので, すべてリストアップした。回答の傾向を見ると, 英語の力はいずれ必要になるという予想は持っているものの, そのイメージはさほど具体的なものではない。ある意味では当然のことで, 卒業後などに実際に必要となった時に初めてその必要度の切実さ, 程度, 内容がはっきりしてくるのであり, 先を予想し, それに備えることの難しさが表現されている。

(3)「何のために英語を勉強するか考えて勉強していますか？」に関しては, いつも意識はしているという回答が約3割で, この点を変えていくのが今回の主たる目論見である。

(4)「英語を将来どのように使うようになると思いますか？」という設問には, 職業とのかかわりを予想している回答が合計で74%になっている。

(5)「英語を将来どのように使えるようになりたいですか？」という設問は, (7)「どんな英語が(将来)必要になると思いますか？(複数選択可)」の設問とほぼ同様な内容であり, 回答にも同様な傾向がある。それは, 将来必要になり, 力をつけたい項目が話

したり聞いたりできるようになりたいということが群を抜いていることであり、2番目として読み書きということになる。

さて、(6)「今の自分の英語力についてどう思いますか？」への回答については、かなり微妙な解釈が必要になろう。それは、基準が極めてあいまいな主観的自己判定の集計だということが理由である。「全体をまとめて言うと」で、「ゆっくり喋ってもらったり、書いてもらったりすれば何とか話は通じる」の選択者が81%になっているが、教室の外での生身の人間相手の、雑音だらけの生きた状況の中では、果してどうであろうか。慣れた環境下で、慣れた相手の言うことに対する理解力と、全く新しい状況下のものとは相当な違いがあると考えるのは当然である。

(11)の回答の短期のものを含む外国旅行経験者が26%であることからわかるように、回答者にそうした経験があまり無いのであるから、それを踏まえた回答を求めること自体少々間違っていたかもしれない。

(10)「英語の検定(資格)は持っていますか？」に関しては、実用英検及び工業英検の何らかの資格を持っている学生が94%もいる。これは、高専に入ってから検定試験の受験の奨励が浸透していることを示している。ただし、実用英検もほとんどが準2級で、やや物足りない点もある。

「学校の授業以外で英語を勉強したことはありますか？」という設問には、ごく少数の、「取扱説明書、英語の雑誌を利用している」「テレビのニュースなどで英語をしゃべっていた場合、字幕を見ないで理解しようとしてはいる。」「文通をしていた。ラジオ講座をやった。セミナーに参加した。外国人と積極的に話した。スピーチコンテストに参加した。」「ラジオ英会話をこの4月から聞き始めた。」等という積極的な回答を除いては、「英語の映画を見る。洋楽が好きなので和訳してある歌詞など見たりして聞いている。」という回答がやや多かった。やはり全体的に、自主的な学習量の絶対的な不足は否めない。また、「インターネットのホームページが英語で書かれていても逃げずに、軽く意味を理解している。というか最近では英語のページを見るのが主かな。」という回答は、最近のコンピュータネットワークの世界的な充実とその積極的な利用である。これは、英語を付随的に学習し、学習者自身の一番の必要性に直接結びついている学習の形態である点が非常に好ましいと考える。

(12)「工業英語って何でしょうか？自分の考えていること(イメージ)を書いてください。」の設問は、当然ながらアンケート後に始まる選択英語のコー

スの教育内容につなげようという目論見を持って行なったものである。回答のリストからもわかるように、かなり妥当なイメージを持って授業に臨んでいることがわかる。

4. 高専での「よい学習者」を育てるための教育について

よい外国語の学習方法を教育する場合に、唯一の理想型というものは無いことを承知しておくことは重要である。というのは、よい学習者(いわゆるできる学習者ではない)は、それぞれの得意分野や得意な方法、すなわち個性やその時々得た段階に応じて、自分なりの方法をやがては見つける必要があるからである。辞書を覚えながら片端から食べていった方法が普遍性を持つとは到底思えないが、そうしてマスターした人がいたという伝説を耳にした人は多いのではないだろうか。

よい学習者を育てるための方法は、基本的には学習者と教授者の共同作業で、実際に効果を確認しつつ、ある程度長い時間をかけて、学習に関する考え方をマスターすることである。何をなぜ(何のために)、どのように、どれくらい学ぶかについての自己管理、自己決定できるようになるための教育である。最初は教授者から一方的に教えることが多少あるにしても、最終的には学習者の自律が目標になる。今回のアンケート調査はその第1歩であり、アンケートを通して自分の学習に関する意識を考え直してみることにより、徐々にその必要性を認識してもらおうとしたものである。同様な考え方でたとえば、McnamaraとDeaneは、Self-Assessment Activities(自己評価活動)として、

①writing letters to teacher

②keeping a daily language learning log

③preparing an English portfolio という活動を紹介している。つまり、①の教授者宛てに書いた手紙で学習者の初期評価をし、②の学習記録帳と③の学期を通じた英語力向上の検討をするための個人学習資料集を利用して、学習者に日常の学力の向上を意識させ、個人個人の言語学習の過程を意識させる活動を行っている。そして、これらの諸活動は学習者が、

①自分の英語の長所・短所を認識する(identify their strengths and weaknesses in English),

②英語力向上の過程を記録する(document their progress),

③効果的な言語学習の方略および教材を明確にする

(identify effective language learning strategies and materials),

- ④ 学習者が自分自身にとって最適な学習環境を意識する (become aware of the language learning contexts that work best for them),
- ⑤ 将来の自律した学習者になるための目標を明確にする (establish goals for future independent learning)

ということの手助けを可能にしていると続けていて、非常に参考になる。⁵⁾ ただし、この研究はアメリカでの上級の第2言語学習者を対象とした英語集中コース受講者を相手にしたのもので、学習者を取り巻く環境も学習言語である英語に常に囲まれているので、我々の対象にしている高専生に即して考える時には、方法の妥当性がややかけ離れたものになる。したがって上記の研究はあくまでもヒントにとどまり、英語力の点でも初級の高専生には、それほど変化が感じられないであろう日常の能力の向上ばかりに気を使わせるのではなく、ほめて元気付けることによる動機付けの方が効果的ではないかと考える。

今まで、教師の立場から「学習目的意識」をどう持たせたらよいかということについて考えてきた。しかし主役はあくまで学習者そのものなのだから、学習者が自発的に目的意識を持つように仕向けなければならぬ。著名な言語学者である鈴木孝夫は、学生の立場について、文脈の趣旨は少し違うものの、「・・・学生生徒は、成績とか卒業といった弱みを教師に握られた、いわば禁治産者的な立場にあるので、これら学習者の不満や批判は、教えるものの耳に届きにくいのです。」と述べている。⁶⁾ つまり、現在の日本では教師と学生の関係や雰囲気は、筆者の望むような、学習者が自分の学習に責任を持つ、自律した学習者を育てるための教育が簡単に導入できるとは考えがたい。なぜならば、こうした方法は今まで述べてきたように学習者、教授者双方にとって大きな意識改革を迫ることになる。したがって、突き詰めていけば、学習者と教授者の共同作業による、教材の選定、学習(効果)進捗の評価、成績評定をも含んだ学習の評価にまで踏み込んだものになると考えるべきであろう。

5. おわりに

小学校、中学校、高等学校に新しい教育課程がそれぞれ導入される。今まで述べてきた、「学習目的意識を持った英語学習者の育成」の中心的な考え方はまさに、新しい教育課程の中心的なテーマと重なり合う。

文部省発行のブックレット『新しい学習指導要領で学校は変わります。』には、自ら学び自ら考える力の育成という項目に、「これまで多くの知識を教え込みがちであった教育から、子供たちに自ら学び自ら考える力を育成する教育へと転換を図ります。また、社会の変化に主体的に対応できる力を育成するとともに、豊かな心やたくましさをはぐくみます。」と、述べられている。⁷⁾ 高専においても、基本に立ち返り、学習者に学習のしかたを改めて教えなおすことを検討してみる必要があると考える。特に、外国語教育に関しては、学習者の最終目的である、身についた外国語の習得の手助けをするという本質に立ち戻ることを目指すならば、さらに継続して真剣に検討していかなくてはならない問題である。

参考文献

- 1) たとえば、NHK番組「教育トゥデイシリーズ/21世紀の英語教育/第1回・ここがダメ!日本の英語」1999年9月4日(土)放映。
- 2) 斎藤誠毅:「英語の学習技術あれこれ ― 生徒と教師のための学習法」、『英語教育』pp.11-13 vol.47 No.9 1998.11 大修館書店 その他 Oxford や O'Malley & Chamot や Nunan など多数。
- 3) 千野栄一:『外国語上達法』, pp.31, 45 岩波新書 1986.1.
- 4) *Learning to Learn English* A Course in learner training Teacher's Book pp.6-7, Cambridge University Press, 1989. 日本語訳は筆者
- 5) Martha J. McNamara and Debra Deane, Self - Assessment Activities: Toward Autonomy in Language Learning, , *TESOL Journal*, vol.5, No. 1 Autumn, pp. 17-21 1995. 日本語訳は筆者
- 6) 鈴木孝夫:『日本人はなぜ英語ができないか』, p.74 岩波新書 1999.7.
- 7) 文部省:『新しい学習指導要領で学校は変わります。』, pp.5-6, 文部省 1999.4.